

## 大学経営基礎講座についてお寄せいただいた質問とその回答(Q&A)

### 受講対象について

Q:募集要項の応募者資格には、初期キャリア段階(入職から7年までの方)とありますが、それに該当しない場合は受講できないのでしょうか？

A:そんなことはありません。初期キャリア段階の方が学びやすいカリキュラム(トピックⅠ～Ⅳ)に設定しているため、受講者資格をそのように設定していますが、初期キャリア段階の方に限るわけではありません。本講座に関心をお持ちいただいたすべての方の受講をお待ちしています。

Q:私は大学教員ですが、受講はできますか？

A:受講いただけます。大学教員になると、大学院生のときとは異なり、大学運営(校務)に関わるが多くなります。本講座の内容はそのような場面で有益であると思われると思います。ぜひご受講いただきたく思います。

### プログラムの実施方法

Q:講義や演習に関する連絡や使用するツールについて教えてください。またそのために準備しておくことはありますか？

A:プログラムに関するすべての連絡は、オンライン上で行います。管理ツールとしては、Google Classroom を通じて行う予定です。皆さんにはフリー(個人)の Gmail アドレスを1つ準備していただくこととなります。ご所属されている大学によっては、Google Workspace により大学 Gmail アドレスを持たれている方がいらっしゃるかもしれません。ですが大学 Gmail アドレスでは登録ができません。Google Classroom に慣れていらっしゃる方もいらっしゃるかと思いますが、その点はスタッフがサポートしますので、ご安心ください。

### 講義と演習について

Q:講義はオンデマンドということですが、講義動画で感じた意見や質問は、どのように共有したり、回答をしていただいたりできますか。

A:講義動画上で意見等を共有できるシステムを導入する予定です。担当教員や受講生同士でインタラクティブなやりとりができるかと思えます。他にも質問受付フォームを設定したり、トピックによっては担当教員とのメール等での直接的なやり取りや、演習回後に担当講師と直接やり取りを行う時間を設けることも検討しています。

Q:講義動画を視聴するにあたり、予習は必要ですか？また課題(復習)は大変ですか？

A:講義回の予習は不要です。前提知識なしでもご理解いただけるように、講義回の動画の作成に努めています。課題(復習)は、講義内容の理解度を確認するために取り組んでもらいます。各トピックで差異がありますが、A4用紙1枚程度に収まるかと思えます。

Q:演習回が行われる日程について教えてください。

A:演習回の日程・時間帯については、募集要項をご覧ください。

Q:演習回後の課題はありますか？

A: 演習回後の課題はありません。それゆえに演習回では、事前予習課題が重要になります。演習回の事前予習課題の提出締切は、当該演習回を実施する前日の正午までとしています。

Q: 業務の都合で、どうしても参加できない演習回があります。欠席は認められますか？

A: 演習回を欠席される場合は、あらかじめご連絡いただき、取り組んでいただきたい代替課題を提示しますのでご安心ください。この点の詳細は、受講者決定後の事務連絡でお伝えします。ただし本講座の演習回では、集団での学びによる価値創造にウェイトを置いています。したがってすべての演習回に参加できないといったようなことは避けていただきたいと思います。

Q: 自由科目「大学経営人材開発論」を担当いただくゲスト講師の方は、どのような方でしょうか？また授業についてどのようなイメージを持ち合わせれば良いでしょうか？

A: 「大学経営人材開発論」を担当いただく講師については、受講者のご関心等も配慮しながらお願いする予定です。ただしお願いする講師の方はすべて、大学経営の人材開発に関する大学院課程や履修証明プログラムを修了された方になる予定です。

Q: 各トピックの内容について質問です。日本では国公私を設置形態で異なる部分が多いかと思いますが、国立大学の内容に偏ったりするのでしょうか？

A: 各トピックの内容は、特定の設置形態を対象としたものに内容が偏ることがないように設計しています。本講座のキーワードは、基礎的・共通的な専門知識・技術＝大学リテラシーの修得です。したがって設置形態の違いに関係のない「ベース」の部分の学んでいただけるような内容としています。

Q: リアルタイムで行われる演習回や自由科目を受講するにあたり、運営側が求めていることはありますか？

A: 演習回と自由科目では、内容や目的が異なりますが、両方に共通して求めたいことは、担当講師と受講者、そして受講者間でのインタラクティブなやり取りを実現したいということです。オンラインではありますが、たとえ小さいものであっても、集団による価値創造を成し遂げたいと思っています。そのため勇気をもって発言していただくと同時に、他者の発言に対して寛容の精神で臨んでいただけたらと思っています。またカメラをオンにして受講していただきたいと思っています。

#### **対面の機会について**

Q: プログラムのすべてをオンデマンドやオンラインで受講できることは、地理的、時間的、費用的にとってもありがたいです。一方で対面の機会について何かお考えになられていることはありますか？

A: 2023年度に関しては、大学経営基礎講座の1年目ということもあり、募集要項に予め定めた4ヶ月間において、対面の機会を予定していません。しかしながら対面での交流が極めて重要であることは言うまでもありません。対面という形式はもちろん、受講者間の継続的な交流の場の設定については、すぐには難しいですが、検討していきたいと考えています。

#### **受講中のサービスについて**

Q: 受講期間中、IDカードのようなものは発行されますか？また図書館は利用できますか？

A: 受講期間中、受講者には学生証は発行されませんが、東北大ID(アカウント)が発行されます。また受講期間中に限って、図書館等もご利用いただけます。

### 大学院進学について

Q:東北大学の過去の履修証明プログラムの修了生のうち、大学院に進学された方はいらっしゃいますか？

A:東北大学大学教育支援センターで実施した過去の履修証明プログラムの修了者の中には、大学院修士課程や博士課程に進学された方が少なくありません。したがって本講座を修了された後、より深い学習・研究を求めて、大学院進学を希望される方が出てこられるようにも思います。また大学院進学を検討しているが、多少なりとも不安を持たれている方におかれましては、進学前の準備として、学術知識と業務知識の双方を配慮した本講座を受講されることをおすすめいたします。

### 受講料(費用)について

Q:受講料 8 万円の設定は、高額ではないとはいえ、個人での負担となると若干キツイです。受講料の設定に対する運営側の考えを教えてください。

A:受講料の設定は、プログラム内容と同等、場合によってはそれ以上に苦心した部分です。ある程度の受講料を徴収することは不可避の流れにあり、本学ならびに他大学の履修証明プログラムの受講料を比較しつつ、必要経費等を算出してこの金額に設定しました。本講座の内容を各機関で独自に企画・実施することは、金額だけでなく、人的にも労力的にも多大なコストが発生すると思われまます。したがって教育関係共同利用拠点として、そのコスト分をお引き受けするというスタンスであることをご理解いただき、受講料設定についてもご理解いただければと思います。なお関係者の皆様におかれましては、大学・機関でのご負担をご検討いただけますと幸甚です。

Q:受講料の振込を、大学の振込としたいのですが、「見積書」及び「請求書」は発行していただけますか。

A:誠に申し訳ございません。「見積書」及び「請求書」は発行出来かねます。

### 大学経営基礎講座の今後について

Q:大学経営基礎講座は今後も実施されますか？

A:2024 年度以降も実施する予定です。

Q:今回は「基礎」講座ということですが、今後、「応用」講座を開講する予定はありますか？また仮にそのような講座が開講された場合、基礎講座受講者の応募を優先的に採用するといったことはありますか？

A:幸いにもすでにそのようなご要望を頂いておりますが、応用講座の設置について、現時点ではまだ具体的に実施を検討している段階にはありません。したがって応募に対する優先受付なども検討しておりません。